

Sentinel RMS License Manager

セットアップ&クイックスタートガイド

2021-05

株式会社エリジョン

目次

1. はじめに	1
2. 導入と設定	2
2.1. Sentinel RMS License Managerの動作環境	2
2.2. Sentinel RMS License Manager のインストール	2
2.3. Sentinel RMS License Manager の起動状況の確認	2
2.4. WlmAdminのインストール	3
2.5. ライセンスの登録と使用状況の確認	3
3. Q&A	5

1. はじめに

- エリジオン製品のライセンスは、Thales 社製の Sentinel RMS License Manager によりライセンス管理されます。



Thales および Sentinel は、Thales 社の登録商標です。

- Sentinel RMS License Manager については、9.7.1 以降のバージョンの使用を推奨いたします。Windows Server 2019 で使用する場合には、必ず 9.7.1 以降のバージョンを使用してください。



Sentinel RMS License Manager は下位バージョンとの互換性が保証されています。よって、それより以前のものを既に導入している場合も、最新バージョンを導入することは特に問題ありません。



クライアントプログラム側のライブラリーのバージョンが Sentinel RMS License Manager よりも上位のバージョンとなっている場合、動作は保証されません。ご注意ください。

- Sentinel RMS License Manager と WlmAdmin などのツールのバージョンは揃える必要があります。ツールのバージョンは、license_admin フォルダ内にある version.txt に記載されています。
- エリジオン製品をノードロックで使用する場合とフローティングで使用する場合のいずれの場合でも、Sentinel RMS License Manager の導入が必要となります。
- 本書では導入～設定/使用までに必要な最低限の手順を記述しております。より詳細な情報については下記のサイトを参照してください。
<https://docs.sentinel.thalesgroup.com/softwareandservices/rms/RMSDocumentation/SysAdmin/Content/Welcome.htm>
- ライセンスの持ち出しについては下記のマニュアルを参照してください。
 - 「ライセンス持ち出し機能ガイド」(LicenseServer_CommuterGuide_ja.pdf)

ライセンス設定動画について

本マニュアルに記載している内容については、以下のサイトで動画も公開しています。本マニュアルと併せてご参照ください。

https://www.elysium-global.com/ja/support/license_settings_movie/

2. 導入と設定

2.1. Sentinel RMS License Managerの動作環境

サポートOS	Windows 8.1 (32bit/64bit) Windows 10 (32bit/64bit)	Windows Server 2012 (64bit) Windows Server 2012 R2 (64bit) Windows Server 2016 (64bit) Windows Server 2019 (64bit)
最低動作環境	RAM : 1GB 以上	

2.2. Sentinel RMS License Manager のインストール

下記のインストーラー (setup.exe) を実行し、インストーラーの指示に従ってインストールしてください。

<インストールパッケージ>\license_server\installer\setup.exe

- 既に Sentinel RMS License Manager を利用中の場合にも、上記のインストーラーを実行してバージョンアップしてください。旧バージョンをアンインストールする必要はありません。
- 旧バージョンをバージョンアップする場合、万が一に備えて事前にライセンスファイル(lservrc)のバックアップをとることを推奨します。ライセンスファイル(lservrc)は下記のフォルダーに保存されています。
 - <インストールフォルダー>\Sentinel RMS License Manager\WinNT
- Sentinel RMS License Managerはデフォルトでは下記のフォルダーにインストールされます。(デフォルトでの導入を推奨)
 - (32bitPCの場合) C:\Program Files\Common Files\SafeNet Sentinel
 - (64bitPCの場合) C:\Program Files (x86)\Common Files\SafeNet Sentinel

2.3. Sentinel RMS License Manager の起動状況の確認

以下の手順で Sentinel RMS License Manager の起動状況を確認することができます。

1. Sentinel RMS License Manager をインストールした端末で、Windowsの[コンピューター]を右クリックして、[管理]コマンドをクリックします。
2. 「コンピューターの管理」ダイアログが起動したら、ダイアログ左側の[サービスとアプリケーション]>[サービス]ノードをクリックします。
3. 「Sentinel RMS License Manager」という名前のサービスがあり、その状態が「開始」もしくは「実行中」になっていれば、ライセンスサーバーは起動しています。

名前	説明	状態	スタートアップの種類	ログオン
 Sentinel RMS License Manager	Sen...	開始	自動	Local System



環境変数 LSERVOPTS が定義されている場合、値に設定されているパスが存在しない時にはサービスの起動が失敗します。その場合には当該環境変数を削除するか、設定されているパスに合わせてフォルダーを作成してください。

2.4. WlmAdminのインストール

ライセンス管理を行うための Windows GUI ベースのユーティリティツール (WlmAdmin) を導入します。任意のフォルダーに下記のフォルダーをコピーしてください。

- <インストールパッケージ>\license_server\license_admin\

本ドキュメントでは以下のフォルダーにコピーしたものとします。

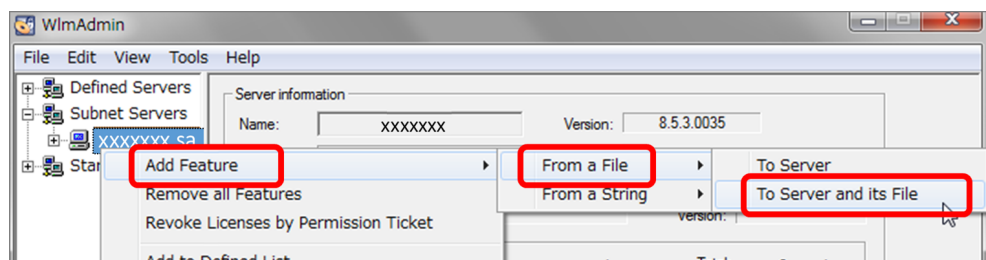
- C:\Elysium\license_admin\

旧バージョンの license_admin フォルダーが既にローカルに存在しており、バージョンアップを行う場合には、当該フォルダーを削除した上で上記の手順に従って最新のものを再度コピーしてください。

2.5. ライセンスの登録と使用状況の確認

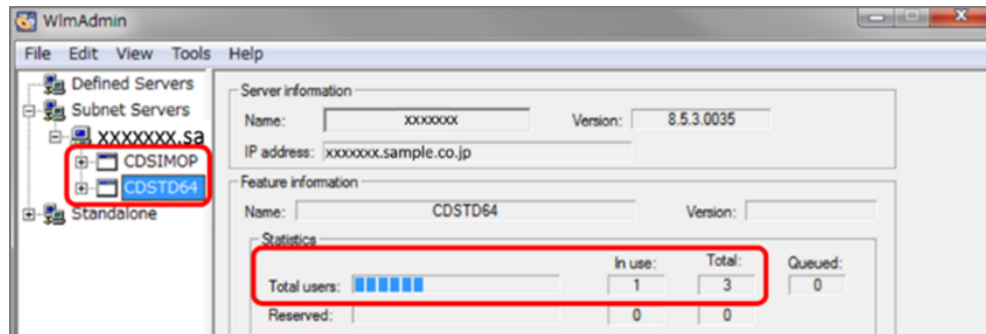
本手順は新規にインストールした場合、およびバージョンアップの際に旧バージョンと違うインストールパスを指定した場合に必要となります。同じパスに上書きしてバージョンアップした場合には不要です。

1. 「2.4, “WlmAdminのインストール”」でコピーした license_admin フォルダー内にある WlmAdmin.exe を実行します。
2. ダイアログの左側の「Subnet Servers」をクリックします。Sentinel RMS License Manager を導入した端末が表示されます。
 - 「Subnet Servers」をクリックしても当該端末が表示されない、もしくは「Subnet Servers」クリック後に長時間経っても処理が終了しない場合には、[「Q&Aの9.」](#)を参照してください。
3. 端末名を右クリックし、[Add Feature] > [From a File] > [To Server and its File] を選択します。（[To Server]ではなく[To Server and its File]を選択してください）



4. ライセンスファイル (*.elylic) を選択して、[開く] ボタンをクリックします。登録が完了します。
5. 登録したライセンスが、ダイアログ左側の端末名の下に表示されていることを確認します。ライセンス名をクリックすると、ライセンスの使用状況が表示されます。「Total」が合計ライセンス数

で、「In use」が使用中のライセンス数です。



クライアントプログラムでライセンスを使用する時は、サーバー名とポート番号 5093 を指定してください。

3. Q & A

Q1: ライセンスサーバーの挙動を時系列で確認するためのログを作成することはできますか？

A1: 可能です。Thales 社のマニュアルの「Usageロギングの設定」をご参照ください。

Q2: ある時点でのライセンスの利用状況（利用者やライセンス数など）をテキストファイルに出力することはできますか？

A2: 可能です。lsmon.exeを用いてコマンドラインに出力したライセンスの利用状況を、テキストファイルにリダイレクトしてください。lsmon.exeのオプションや詳細な仕様については Thales 社のマニュアルの「lsmon - ライセンスサーバのトランザクションの監視」をご参照ください。

Q3: 冗長化したライセンスサーバーを構築するにはどうすればよいですか？

A3: 冗長化したライセンスサーバーの構築は通常のライセンスでは行えません。冗長化構築のための専用ライセンスが必要です。冗長化したライセンスサーバーの構築は有償機能とさせていただいておりますので、対応手順/価格などについては購入元の販売代理店様、もしくはエリジオンへお問い合わせください。

Q4: クライアントプログラムとライセンスサーバーはどのような方法で通信を行っていますか？

A4: クライアントプログラムからUDP 5093番ポートを使用してライセンスサーバーと通信を行います。TCPではなくUDPですご注意ください。

Q5: 使用するポート番号（UDP）を変更するにはどうすればよいですか？

A5: 使用するポート番号（UDP）を変更する方法については、Thales 社のマニュアルの「ライセンスサーバー 使用頻度の低い変数」（LSPORT）をご参照ください。なお、別途説明しているライセンス持ち出し機能を使用する場合は、UDP 5093番ポートを使用する必要があります。

Q6: 部署ごと・ユーザーごとにライセンスを使用できる数を定義するにはどうすればよいですか？

A6: WlsGrMgr.exeを用いてグループリザベーションファイルを作成すれば、各部署がどのライセンスをいくつ使用できるかなどを、ホスト名やユーザー名単位で定義できます。詳しくは Thales 社のマニュアルの「Windowsでのグループリザベーションファイルの編集 (WlsGrMgr)」をご参照ください。

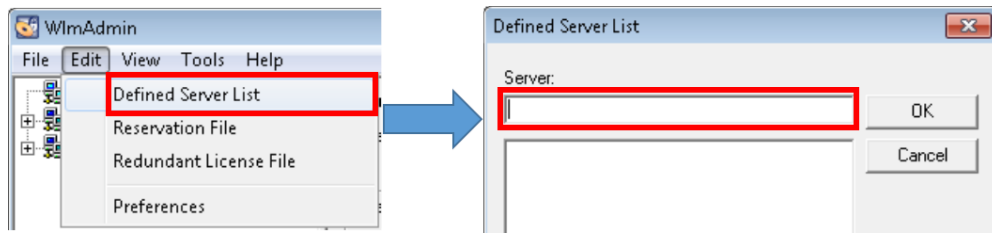
Q7: WlmAdminから正しくライセンスサーバーの情報を参照できません。

A7: WlmAdminをはじめとしたlicense_adminフォルダー内のツール(License Utility)は、ライセンスサーバー（License Manager）とバージョンがそろっていないと正しく動きません。license_admin\elcomp.wsfにLicense Utilityをドラッグアンドドロップすると、下図のようにバージョンが揃っているかどうかを確認することができます。

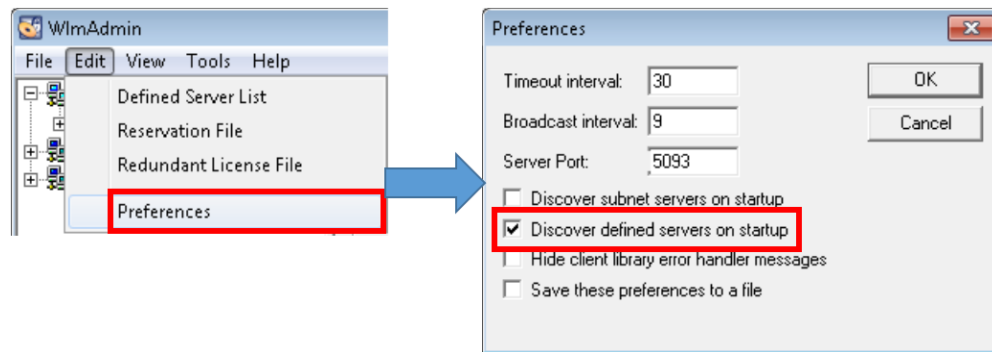
License Manager: v8.5.5.15 (lservnt) License Utility: v8.5.5.15 (WlmAdmin) Compatibility: COMPATIBLE	License Manager: v8.5.5.15 (lservnt) License Utility: v8.4.1.5 (WlmAdmin) Compatibility: NOT COMPATIBLE
---	--

Q8: 「Subnet Servers」をクリックしても端末が表示されません。（もしくは、クリック後長時間経っても処理が終了しません）

A8: メニューから、[Edit] > [Defined Server List]を実行して、端末名を入力してください。



また、入力した端末名を保存するために、メニューから[Edit] > [Preferences]を実行して、"Discover defined servers on startup"にチェックを入れてください。



Q9: ライセンスに関連する問題でエリジオン製品が正しく動作しない場合はどうすればよいですか？

A9: 以下の3つの環境変数を設定し、それぞれのログファイルを取得してください。サポート窓口への問い合わせ時、現象報告とともに取得したログファイルもサポート窓口までお送りください。

サーバー側

- 環境変数名：LSERVOPTS

値の例：-l C:\Elysium\license_admin\log\lserv.log

- 値としては、-lに続けて保存するログファイルの絶対パスを指定してください。
- システム環境変数に設定し、OSを再起動してください。

クライアント側

- 環境変数名：ELY_RMS_DBG_FILE

値の例：C:\Temp\rmsdbg.txt

- 値としては、保存するログファイルの絶対パスを指定してください。
- 環境変数に設定し、該当エリジオン製品を再度起動してください。

- 環境変数名：ELSENT_ERROR_FILE

値の例：C:\Temp\rmsdbg.txt

- 値としては、保存するログファイルの絶対パスを指定してください。
- 環境変数に設定し、該当エリジオン製品を再度起動してください。



ELY_RMS_DBG_FILE と ELSENT_ERROR_FILE には同じログファイルを指定することを推奨します。

Q10: ライセンスサーバーを仮想環境で使用することはできますか？

A10: 可能です。ただし、ライセンスを有効に保つためには以下3点の情報が変更されないように運用していただく必要があります。

- MACアドレス
- CPU情報
- UUID

Q11: WlmAdminを終了した際にアプリケーションの異常終了を示すエラーが発生します。どうすればよいですか？

A11: この現象はSentinel RMS License Managerの既知の問題です。WlmAdminを終了する前に [Help] > [WlmAdmin] を選択してバージョン情報を表示してから終了することで回避できる場合があります。なお、本現象は次期バージョン以降の Sentinel RMS License Manager で修正される予定です。

Q12: Windows10 にライセンスサーバーをインストールして使用しています。発行されたライセンスが登録できません。ElyMachineInfo.exe を実行したところ申請時とロッキングコードが変わっているようです。どうすればよいですか？

A12: Windows10 の"ランダムなハードウェアアドレス"機能により申請時と MAC アドレスが変わっている可能性があります。この機能を無効化することによりMACアドレスが固定され、ロッキングコードが変わることはなくなります。無効化の手順は以下の通りです。

1. スタートメニューから [設定] を選択します。
2. "Windows の設定" で [ネットワークとインターネット] を選択します。
3. ウィンドウ左側のメニューから "Wi-Fi" を選択します。
4. "ランダムなハードウェアアドレスを使う" を "オフ" に変更します。

なお機能を無効化しても、最初にロッキングコードを取得した際とは異なった MAC アドレスで固定されている可能性があります。その場合には ElyMachineInfo.exe を実行した際のスクリーンショットを採取して弊社までご連絡ください。ElyMachineInfo.exe は以下のパスにあります。

- <インストールパッケージ>\license_server\locking_code\

Q13: Windows10にライセンスサーバーをインストールして使用しています。ライセンスを登録した当初は問題なくアプリケーションが動作していましたが、ある時からライセンスが取得できなくなりました。どうすればよいですか？

A13: Q13と同じくWindows10の"ランダムなハードウェアアドレス"機能によりMACアドレスが変わった可能性があります。Q13に記載した手順で"ランダムなハードウェアアドレス"機能を無効化し、状況が改善するか確認してください。それでも状況が改善しない場合には ElyMachineInfo.exeを実行し、ライセンスの申請時からロッキングコードが変わっていないかを確認した上で、結果を弊社までご連絡ください。

本コンテンツに関わる著作権は株式会社エリジオンもしくは原権利者に帰属しています。
著作権者の承諾なしに無断で改変、複製、転載、再配布、転送、公衆送信、販売、貸与などの
行為をすることは禁じられています。